

76th kanto university league soccer 入替戦

NEVER

2002.11.2号

編集：関東大学サッカーリーグ戦プログラム制作委員会 印刷：関東大学サッカー連盟

11/2 (土) 入替戦

13:00 KICK OFF

慶應義塾大学

(1部リーグ7位)

V S

日本大学

(2部リーグ2位)

- ・ 慶應義塾大が勝った場合はそれぞれ現在所属するリーグに残留
- ・ 日大が勝った場合、慶應義塾大は6年振り2部降格、日大は11年振り1部昇格
- ・ 90分を経過して勝敗が決しない場合は、30分を限度とするVゴール方式の延長戦
それでも勝敗が決しない場合はそれぞれ現在所属するリーグに残留

< 2部 - 都県入替戦 >

11/23(土) 13:00K.O 古河市立古河サッカー場

東京農業大学 VS 桐蔭横浜大学

(関東2部7位)

(都県2位、神奈川代表)

慶應義塾大学

昨年と同じ3勝7敗4分の成績で2部との入替戦に臨む慶應大。今年春先から、守備重視のサッカーからつないで攻めるスタイルへの変化の兆しをみせ、躍進に期待を抱かせた。また、FW槻木、MF渡辺・玉田、DF河村ほか、ポジションごとに4年生が主軸をなし、MF生田やFW内山・飛田らの成長が加わって、集大成といえるシーズンでもあった。だが結果だけを見れば、5位につけた前期を経ながら後期は最終節まで勝ち星を奪えず、最後の最後にドラマティックな逆転劇で自動降格を免れるという、昨リーグと寸分違わぬ展開を見せるに留まった。

得点ランク2位となる8得点を叩き出したエース槻木を筆頭に、前線、中盤のコンビネーションもよく、コンスタントにチャンスをつくって点を取ることはできた。しかし渡辺主将が「いわゆる慶應らしさがピッチ上で失われていた」と話すように、あっさり失点を許す場面も多く、チームとして勝負どころを読む判断力、試合展開に適應する集中力の弱さが表れてしまった感がある。前期急成長を見せ、確実に戦力になりつつあったDF松井、MF太田らが負傷で次々と戦列を離れたことも大きな誤算となった。だがこの状況でMF鈴木や児玉らの新戦力が登場、臆することなくプレーする姿には、全員一丸となって戦う慶應らしさの原点が垣間見えた。

もともと、追い込まれても土壇場で踏ん張る底力、選手個々の勝利に対する執念では他の追随を許さない慶應大。最終節のように、狙いがはっきりした戦いには絶対的な強さを見せる。だからこそ、「4年が中心となって、フィールドの中でも外でも指針と野心を打ち出した」と渡辺主将。勝つために何をすべきか、意思統一のなされたワンランク上の戦いで、1部の力を証明したい。

慶應義塾大学

- *最近4年間の成績*
- 1999 1部リーグ8位(2勝5敗)
→入替戦 VS 東農大
1-0で勝利し1部残留
 - 2000 1部リーグ7位(2勝4敗1分)
→入替戦 VS 東海大
3-2で勝利し1部残留
 - 2001 1部リーグ7位(3勝7敗4分)
→入替戦 VS 法政大
2-0で勝利し1部残留
 - 2002 1部リーグ7位(3勝7敗4分)
→入替戦 VS 日大

| | |
|------|------|
| 内山晋輔 | 槻木清道 |
| 玉田知也 | 光山真嗣 |
| 生田圭 | 渡辺武彦 |
| 小口雄介 | 山口祥吾 |
| 河村統 | 湯澤健 |

竹中修平

| 順位 | 1部 | 駒澤大 | 筑波大 | 東学大 | 国士大 | 亜大 | 順大 | 慶應大 | 青学大 | 勝点 | 勝 | 負 | 分 | 得点 | 失点 | 得失差 |
|----|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----|----|---|---|----|----|-----|-----|
| 1 | 駒澤大 | 2●3 2○0 | 1●2 3●4 | 4○1 1△1 | 8○1 2●3 | 3○0 6○0 | 3○2 2○1 | 5○1 4○1 | 28 | 9 | 4 | 1 | 46 | 20 | +26 | |
| 2 | 筑波大 | 3○2 0●2 | 3●4 3○2 | 2△2 1○0 | 2△2 1△1 | 2○1 5○1 | 4○0 1△1 | 1○0 1○0 | 28 | 8 | 2 | 4 | 29 | 18 | +11 | |
| 3 | 東学大 | 2○1 4○3 | 4○3 2●3 | 1●3 3○2 | 1△1 3○1 | 2●3 3○1 | 3○1 2○0 | 0●1 1●2 | 25 | 8 | 5 | 1 | 31 | 25 | +6 | |
| 4 | 国士大 | 1●4 1△1 | 2△2 0●1 | 3○1 2●3 | 5○2 2●3 | 5○0 1●2 | 1△1 4○1 | 1△1 2○1 | 19 | 5 | 5 | 4 | 30 | 23 | +7 | |
| 5 | 亜大 | 1●8 3○2 | 2△2 1△1 | 1△1 1●3 | 2●5 3○2 | 1△1 0△0 | 0△0 2●3 | 3○0 3●5 | 15 | 3 | 5 | 6 | 23 | 33 | -10 | |
| 6 | 順大 | 0●3 0●6 | 1●2 1●5 | 3○2 1●3 | 0●5 2○1 | 1△1 0△0 | 0●1 2○1 | 1△1 3○0 | 15 | 4 | 7 | 3 | 15 | 31 | -15 | |
| 7 | 慶應大 | 2●3 1●2 | 0●4 1△1 | 1●3 0●2 | 1△1 1●4 | 0△0 3○2 | 1○0 1●2 | 1○0 3△3 | 13 | 3 | 7 | 4 | 16 | 27 | -11 | |
| 8 | 青学大 | 1●5 1●4 | 0●1 0●1 | 1○0 2○1 | 1△1 1●2 | 0●3 5○3 | 1△1 0●3 | 0●1 3△3 | 12 | 3 | 8 | 3 | 16 | 29 | -13 | |

※上段は前期の対戦成績

※予想布陣は直近の試合を参考としています。

上位リーグとの入替戦は4年振りの日大。一昨年は下位リーグとの入替戦に出場し、後半終了間際の同点劇でかろうじて2部残留を決めている。今季はJリーグの監督経験もある植木繁晴コーチを迎えて春から着実に力をつけ、夏の総理大臣杯を経験し(2回戦進出)、後期リーグでは破竹の6連勝。だが、初めて首位に立って迎えた最終戦・中大との首位決戦は、開始10分で相手MFが退場するというアクシデントをプラスに活かすことができず敗れてしまった。

後期躍進の最大の要因は、これまで見られがちだった試合ごとのムラがなくなり、毎試合安定した試合運びができるようになったこと。失点数が前期の12から8へと減少したことも大きい。攻撃面においてこれだけ完成度の高いチームができたのは2部で連覇を飾った1993～1994年のシーズン以来と言える。短いタッチでパスをつないで相手ゴールに迫り、FWがスピードとタイミングで得点を奪う。32得点という2部最高得点数を誇るが、いわゆる個人技で奪った得点はほとんどない。それだけ、キッチリとゴールにつながるパスやクロスが供給できているということ。それは、32得点中22点をFWの白井、唐松、横山の3人で記録していることからわかる。徹底したフィジカルトレーニングで向上した運動量と、勝ち続けたことで増幅された自信が後期の連勝を支えた。しかし、それだけに最終節で初黒星を喫して入替戦に臨むこととなったのが最大の懸念材料ともなった。後期開幕時に勝点4差だった中大を追い、最終節で逆転することだけを焦点に戦っただけに、この1週間での照準の切り換え方如何で勝負は見える。植木コーチも「今から力は変わらない。もう一度立て直せるかどうか」と課題を話した。得た自信が実力となったのか、4年前も相対した慶應大を上回る1部への欲望を見せられるか…この1試合で試される。

日本大学

最近4年間の成績

1999 2部リーグ5位(3勝3敗1分)

2000 2部リーグ7位(1勝4敗2分)

→入替戦 VS 専修大

1-1で引き分け2部残留

2001 2部リーグ6位(6勝7敗1分)

2002 2部リーグ2位(10勝4敗)

→入替戦 VS 慶應義塾大

| | |
|------|------|
| 白井弘貴 | 横山裕次 |
| 山崎渡 | 大谷健人 |
| 村松明人 | 佐々木剛 |
| 和田拓三 | 石井秀夫 |
| 佐藤元紀 | 末本直太 |

谷淳

| 順位 | 2部 | 中大 | 日大 | 法政大 | 流経大 | 明治大 | 東海大 | 東農大 | 早大 | 勝点 | 勝 | 負 | 分 | 得点 | 失点 | 得失差 |
|----|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----|----|---|---|----|----|-----|
| 1 | 中大 | | 3○1 3○1 | 2○1 1○0 | 1○0 1●2 | 2○1 1△1 | 5○1 1○0 | 0●1 2○0 | 1△1 5○0 | 32 | 10 | 2 | 2 | 28 | 10 | +18 |
| 2 | 日大 | 1●3 1●3 | | 1○0 1○0 | 2●4 4○2 | 1●3 4○1 | 1○0 3○1 | 2○1 4○0 | 3○1 4○1 | 30 | 10 | 4 | 0 | 32 | 20 | +12 |
| 3 | 法政大 | 1●2 0●1 | 0●1 0●1 | | 0△0 4○3 | 1●3 0●1 | 4○1 4○1 | 2○1 3○0 | 4○1 4○0 | 20 | 6 | 6 | 2 | 23 | 16 | +7 |
| 4 | 流経大 | 0●1 2○1 | 4○2 2●4 | 0△0 3●4 | | 0●2 1△1 | 1△1 1△1 | 1△1 3○1 | 2○1 4○1 | 20 | 5 | 4 | 5 | 24 | 21 | +3 |
| 5 | 明治大 | 1●2 1△1 | 3○1 1●4 | 3○1 1○0 | 2○0 1△1 | | 1●2 1●2 | 2△2 2△2 | 1●3 1○0 | 19 | 5 | 5 | 4 | 21 | 21 | ±0 |
| 6 | 東海大 | 1●5 0●1 | 0●1 1●3 | 1●4 1●4 | 1△1 1△1 | 2○1 2○1 | | 2○1 2○1 | 1●2 1△1 | 15 | 4 | 7 | 3 | 15 | 27 | -12 |
| 7 | 東農大 | 1○0 0●2 | 1●2 0●4 | 1●2 0●3 | 1△1 1●3 | 2△2 2△2 | 1●2 1●2 | | 1○0 4○0 | 12 | 3 | 8 | 3 | 16 | 25 | -9 |
| 8 | 早大 | 1△1 0●5 | 1●3 1●4 | 1△1 1●3 | 1●2 1●4 | 3○1 0●1 | 2○1 1△1 | 0●1 0●4 | | 9 | 2 | 9 | 3 | 13 | 32 | -19 |

※上段は前期の対戦成績

日本大学

中大2部優勝、2年振り1部返り咲き！

第76回関東大学サッカーリーグ戦2部リーグは、中大が1年で1部復帰を決めた。例年になく下位と下位の差が明確に現れた今季、3節終了時から首位に立ち、13節で一度日大に逆転を許したものの、その日大との直接対決となった最終節で1人少ないハンデをものともせず再逆転、優勝をもぎ取った。得点数28もさることながら、14試合で10失点という守備の堅さによってわずかに2敗でリーグを終了。この結果、1部との入替戦に挑戦する2位には日大、3位に終盤3連勝を飾った法政大、4位に2部1年目の流経大が入った。明治大は5位に後退、6位には最終節で入替戦を回避した東海大、その東海大との直接対決に敗れた東農大が都県との入替戦にまわり、早大は残念ながら1年で東京都リーグへ逆戻りすることとなった。なお、得点王は阿部吉朗(流経大)、アシスト王は中村憲剛(中大)が獲得した。

中央大学優勝コメント集

【山口芳忠監督】

「(日大戦は)退場者を出してしまったが、逆にそれで締まった部分があった。何よりも先制点が取れたのが大きかった。勝たないと優勝できないので、中村を(より多く)攻撃に絡ませたかった。ここ2試合はプレッシャーで厳しい試合が続いたので、選手たちにはこの試合はとにかくゲームを楽しむように言った。日大は逆に緊張していたようで、ウチは開き直ってできたのが大きかったのでは。選手達は最後まで集中して頑張ってくれた。そのことが優勝できた一番大きな要因だったと思う」

【中村憲剛・主将・4年・MF】

「とにかく優勝して最高の気分。石原が早い時間に退場したが、1人1人思い切ってやることができたし、まず守備からというウチのサッカーが徹底できた。自分がゴールすることを意識したわけじゃないけど、とにかく点を取らないことには勝てないので、(勝ち越しゴールは)思い切り打った。厳しい試合だったけれども、勝てて本当にうれしい。感無量です」

【寺内雄貴・4年・MF】

「本当に厳しい試合だった。(12節で)流経大に負けてからチームとしてなかなかうまくいかない部分も出てきたけど、我慢して最後の最後に勝てたのがうれしい。今日は途中で1人少なくなったけど、すぐに冷静になれたのでうまくボールをつなげることができた。インカレではもっといいサッカーをして結果を出したい」

【吉田弘爾・4年・FW】

「今年のチームは本当に“戦える”チームだったし、最後まで味方が助け合っていて、自分としてもきちんと戦うことができた。それがこのチームの一番の良さだと思うし、だからこそこのような結果が出せたんだと思う。(日大戦は)いろんな面で自分達のほうにマイナスが多かったが、それが逆に最後にはプラスになった。そういう勝負の楽しさを最後に味わえたのがうれしかった」

【伊藤大伸・3年・MF】

「優勝できてうれしい。来年1部から落ちないように、4年生の残してくれたものを失わないようにしたい」

【植村慶・3年・GK】

「ただただうれしい。今日は上位チームが相手ということでFWもうまいし厳しい部分もあったが、DFを信頼していたのと、たとえ1点取られても必ず前が点を取ってくれようと思っていた。1部昇格はうれしい反面、どこまでできるのかという戸惑いもある。ただ、この1年で来年1部で戦うチームの土台はできたと思うので、少しでもいい結果を出せるよう頑張りたい」

【柴村直弥・2年・DF】

「とにかくうれしいだけ。先制点に関しては無我夢中で、特にゴールは意識していなかった。今日の勝利は1年間頑張った成果だと思う。来年は1部だけど、1部でも優勝しなければ意味がないので頑張っていきたい」

【上野和彰・3年・DF】

「ずっと優勝を目指してきたので本当にうれしい。今日は勝つことを信じて全員が一丸になって気持ちで勝った試合だと思う。今年のチームは本当に賑やかで、みんなが友達のようなまとまりのあるチーム。そういう意味でもこの優勝はチームの力で得た優勝だと思う」

【大柿政治・3年・FW】

「とにかくうれしい。個人的にFWとして今季通算1点というのは考えなくてはならない部分もあるが、来年はまた来年、改めて考えていきたい」

【石原紀人・3年・MF】

「今日はとにかく退場がショックだったので…来年は1部なので、今年以上に頑張っていきたい」

【杉本康介・2年・DF】

「今日は石原さんのためにも頑張りたいと思った。DFはやるのがハッキリしているので集中力も出てプレーできた。来年も試合に出ることができるよう頑張りたい」

【田村雄三・2年・MF】

「うれしかった。今日はとにかく勝つしかない、やるしかないという状況だったので、声出しを意識してやった。来年の目標は大きく上位…いや、優勝したいですね(笑)」

1部より青学大が3年振り2部へ

都県からは国際武道大が悲願達成

3校に自動降格の可能性を残して最終節を迎えた1部リーグは、順大が青学大を下して6位、慶應大が亜大に対しロスタイムに決勝ゴールを奪って最下位を回避。3勝8敗3分の青学大が8位で自動降格となり、来季は3年振りに2部でプレーすることとなった。

また、都県からは関東大会を制した千葉県国際武道大が、悲願であった初の関東リーグ昇格を決めた。春・秋の2期制に移行し強化を図った千葉県リーグで優勝し、関東大会では作新学院大、日体大、桐蔭横浜大を破って優勝。詳細は「NEVER」11・23号で紹介する。

76th kanto university league soccer 入替戦

NEVER

2002.11.23号

編集：関東大学サッカーリーグ戦プログラム制作委員会 印刷：関東大学サッカー連盟

11/23(土) 2部一都県入替戦

13:00 KICK OFF

東京農業大学

(2部リーグ7位)

V S

桐蔭横浜大学

(都県2位、神奈川代表)

- ・東農大が勝った場合はそれぞれ現在所属するリーグに残留
- ・桐蔭大が勝った場合、東農大は初の東京都リーグ降格、桐蔭大は初の関東2部昇格
- ・90分を経過して勝敗が決しない場合は、30分を限度とするVゴール方式の延長戦
それでも勝敗が決しない場合はそれぞれ現在所属するリーグに残留

創部5年目の桐蔭横浜大。神奈川県リーグで優勝し、出場2度目の関東大学サッカー大会で初の決勝まで進んだ。国際武道大に逆転負けを喫して惜しくも自動昇格は逃したものの、先制点を奪って守勢に回ってしまった反省点を踏まえ、なかなか経験することのできないプレッシャーのかかる入替戦を逆に「楽しみ」として迎えようとしている。

高校サッカーで実績のある桐蔭学園高校と同じ敷地内にあり、練習も高校と同じ人工芝（砂入り）のサッカー場を使っている。しかし、桐蔭学園出身の選手はほとんどおらず、他の有名高校へも特段のスカウト活動は行なっていないという。現在の4年生は、同好会同然で紅白戦を行なえる人数にも満たない小さなサッカー部に入部してきた。大学からサッカーを始める部員もいるというチームを創部当初から育ててきた風間八宏監督は、「神奈川でも人材的には関東学院や神大の方が上かもしれない。勝ち負けでの評価ではなく、目標値を設定し、「自分」を主語として4年間サッカーをやってくればいい」と話す。

自分を主語に…それは、相手に合わせるのではなく自分の、そしてチームの長所を活かすサッカーに通じる。「皆、点を取ることが楽しくてサッカーをやっている。「守る」ことを考え始めたらダメになるチーム」と風間監督が言うように、常に攻撃的なサッカーを展開する。「自分たちが下がらなければ押し込まれることはない（安武主将）」という考え方が、チーム全体に浸透しているようだ。FW水上、MF馬場・鈴木らを中心に、高さはそれほどないが、凸凹のないグラウンドで培われた技術で正確にパスをつないで相手ゴールへ迫る。「苦手なことを補修するよりも、自分の一番得意なことを90分間やればいい」という風間監督の指導方針のもと、個々の長所を知りつくした仲間が伸び伸びサッカーを展開した時、桐蔭横浜大の新たな歴史に一歩踏み出すことになる。

桐蔭横浜大学

最近4年間の成績

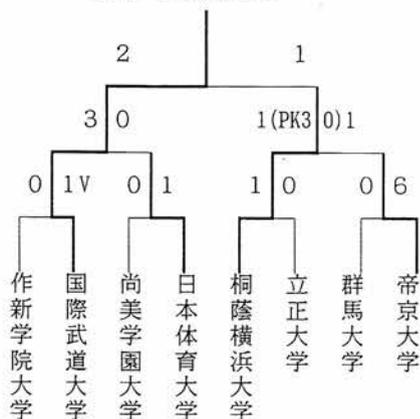
- 1999 神奈川県リーグ2位(5勝1分)
- 2000 神奈川県リーグ優勝(5勝)
関東大会予選リーグ敗退
- 2001 神奈川県リーグ2位(4勝1敗)
- 2002 神奈川県リーグ優勝(7勝)
関東大会準優勝
- 入替戦 VS 東京農業大

<予想布陣>



| 神奈川県リーグ | 桐蔭大 | 神奈川 | 産能大 | 防衛大 | 関東大 | 横国大 | 横市大 | 商科大 | 勝点 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 1 桐蔭横浜 | | 2○1 | 1○0 | 2○1 | 2○0 | 5○0 | 2○0 | 8○0 | 21 |
| 2 神奈川 | 1●2 | | 2○1 | 2○1 | 2○1 | 2●3 | 3○0 | 7○2 | 15 |
| 3 産能 | 0●1 | 1●2 | | 1○0 | 1●2 | 5○3 | 5○0 | 6○4 | 12 |
| 4 防衛大 | 1●2 | 1●2 | 0●1 | | 3○1 | 0●1 | 2○1 | 7○0 | 9 |
| 5 関東学院 | 0●2 | 1●2 | 2○1 | 1●3 | | 2△2 | 1△1 | 6○1 | 8 |
| 6 横浜国立 | 0●5 | 3○2 | 3●5 | 1○0 | 2△2 | | 0●1 | 1●2 | 7 |
| 7 横浜市立 | 0●2 | 0●3 | 0●5 | 0●2 | 1△1 | 1○0 | | 5○1 | 7 |
| 8 横浜商科 | 0●8 | 2●7 | 4●6 | 0●7 | 1●6 | 2○1 | 1●5 | | 3 |

<平成14年度関東大学サッカー大会>
優勝：国際武道大学



桐蔭横浜大学

東京農業大学

「結局DFがたて直せないままだった」。砂川監督がそう嘆くのも無理はない。守備の安定を目標に掲げ後期リーグに臨んだ東農大だったが、成岡、増本、澤村らがたて続けに負傷。満身創痍の状態では戦わざるを得なかった。そのうえ、13節の法政大戦で唯一無傷だった奥野が退場。最終節の東海大戦ではMFの松浦が最終ラインに入る緊急事態となった。試合はエース実信のFKで先制するも後半に追いつかれ、終了間際に逆転負け。3勝8負3分の成績で入替戦を戦うことになった。

だが、この1カ月間に懸念だったケガ人も復帰。リーグ全試合出場のGK菊池が半月板損傷で出場できないという不安材料はあるものの、澤村、成岡、奥野を中心に今度こそDFラインの安定を図りたい。また、「足下のパスを意識しすぎて、そこを狙われていた」(砂川監督)という攻撃も、リーグの終盤になると改善の兆しが見えてきた。平や大多和ら、スペースを巧みに使う選手を活かす展開で攻めのバリエーションが広がり、その結果、得意とするサイドからの攻撃も引き出されるようになった。それだけに、この流れを活かして「まずは先制点を取る」(同監督)ことが勝負の分かれ目となること間違いない。

主将の松浦をはじめ、MFの佐野、実信らは1年生の時に1部との入替戦を経験。圧倒的な攻撃力を見せながらも、最後まで慶應のゴールを割ることができず悔し涙を流した。今回は3年前と違い、桐蔭横浜大をチャレンジャーとして受ける側に回る。だが「相手はリーグや関東大会を勝ってきたチーム。だから、むしろ自分たちの方がチャレンジャーのつもりで戦わなければ勝つことはできない」(松浦)。そのためにはまず先制点を取り、先手先手のゲーム展開が必要だという。「来年に後輩たちが1部を狙えるように、最低限のものを残すのが仕事」という松浦ら4年生たちの、入替戦に賭ける意地に期待したい。

東京農業大学

最近4年間の成績

- 1999 2部リーグ1位(5勝1敗1分)
→入替戦 VS 慶應義塾大
0-1で敗退し2部残留
- 2000 2部リーグ5位(3勝3敗1分)
- 2001 2部リーグ4位(7勝6敗1分)
- 2002 2部リーグ7位(3勝8敗3分)
→入替戦 VS 桐蔭横浜大

<予想布陣>



| 順位 | 2部 | 中大 | 日大 | 法政大 | 流経大 | 明治大 | 東海大 | 東農大 | 早大 | 勝点 | 勝 | 負 | 分 | 得点 | 失点 | 得失差 |
|----|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----|----|---|---|----|----|-----|-----|
| 1 | 中大 | 3○1 3○1 | 2○1 1○0 | 1○0 1●2 | 2○1 1△1 | 5○1 1○0 | 0●1 2○0 | 1△1 5○0 | 32 | 10 | 2 | 2 | 28 | 10 | +18 | |
| 2 | 日大 | 1●3 1●3 | 1○0 1○0 | 2●4 4○2 | 1●3 4○1 | 1○0 3○1 | 2○1 4○0 | 3○1 4○1 | 30 | 10 | 4 | 0 | 32 | 20 | +12 | |
| 3 | 法政大 | 1●2 0●1 | 0●1 0●1 | 0△0 4○3 | 1●3 0●1 | 4○1 4○1 | 2○1 3○0 | 4○1 4○0 | 20 | 6 | 6 | 2 | 23 | 16 | +7 | |
| 4 | 流経大 | 0●1 2○1 | 4○2 2●4 | 0△0 3●4 | 0●2 1△1 | 1△1 1△1 | 1△1 3○1 | 2○1 4○1 | 20 | 5 | 4 | 5 | 24 | 21 | +3 | |
| 5 | 明治大 | 1●2 1△1 | 3○1 1●4 | 3○1 1○0 | 2○0 1△1 | | 1●2 1●2 | 2△2 2△2 | 19 | 5 | 5 | 4 | 21 | 21 | ±0 | |
| 6 | 東海大 | 1●5 0●1 | 0●1 1●3 | 1●4 1●4 | 1△1 1△1 | 2○1 2○1 | | 2○1 2○1 | 15 | 4 | 7 | 3 | 15 | 27 | -12 | |
| 7 | 東農大 | 1○0 0●2 | 1●2 0●4 | 1●2 0●3 | 1△1 1●3 | 2△2 2△2 | 1●2 1●2 | | 12 | 3 | 8 | 3 | 16 | 25 | -9 | |
| 8 | 早大 | 1△1 0●5 | 1●3 1●4 | 1△1 1●3 | 1●2 1●4 | 3○1 0●1 | 2○1 1△1 | 0●1 0●4 | 9 | 2 | 9 | 3 | 13 | 32 | -19 | |

※上段は前期の対戦成績

国際武道大学悲願の2部昇格!

◆関東大会を「我慢」のサッカーで制して初の関東昇格決める◆

昨年から、優勝校が関東2部リーグへ自動昇格することになった関東大学サッカー大会。決勝は、東海大が昇格した3年前以来の千葉-神奈川対決となり、今回は千葉の国際武道大が逆転勝利で悲願の関東2部昇格を決めた。

千葉県リーグは例年、国際武道大、中央学院大、明海大を中心に優勝争いが繰り広げられている一方、その他の大学との差が歴然としていた。今年度から春・秋の2期制を導入し、春は8校でのリーグ戦、秋は春の上位4校及び下位4校に分けて2回戦総当たりのリーグ戦を実施。その「強化策」の結果、「接戦を多く経験できた」(湯田一弘監督)ことが、厳しい関東大会を勝ち抜く一つの要因となった。

今年の国武大の大きなテーマは、攻守にわたる激しさを追求した「アグレッシブ」。しかし、関東大会で湯田監督が掲げたテーマは「我慢」。苦しい局面を耐えること、自分たちのやるべきことを90分間やり続けること。そういった我慢のサッカーを展開した結果、1回戦は作新学院大に延長の末1-0のVゴール勝ち、2回戦は日体大を3-0と突き放して勝利、決勝は桐蔭横浜大に先制を許しながら2-1と逆転勝利を取めた。

DF佐藤光治を中心とした屈強なディフェンスと、右サイドハーフ天願匠、FW今井伸のスピードを活かした攻撃が特徴。攻守の起点となる岩野匡伸、左サイドからの正確なクロスと中央からのパスも狙える菊地洋平ら下級生も多く、来年以降の活躍に期待したい。高卒でJリーグを経験してから入学してきた選手が複数お

り、年齢的に幅広い選手が在籍する国武大。そのようなチームにあって、全選手とスタッフが一体となって戦った結果が関東2部昇格だった。関東大会優勝によって出場権を得たインカレでは福岡教育大に敗れたものの、千葉県予選で順大を破っており天皇杯にも出場。多くの経験を経て、初の関東リーグに挑戦する。

【湯田一弘監督】

「今年は一体感という考え方がフィットした。ピッチの中と外が一体となって、ようやくここまで来た。大きな目標は達成したが、維持ではなく向上をしていかないと関東2部には残れない。まず芯になる選手をつくりたい」

【藤田敬三主将】

「決勝は未知の場所だったが気負うことなく、先に点を取られても貪欲にいかけて、勝って昇格を決めるという気迫があった。昇格して終わりではなく、これからが大変だと思うが、目標も高くなっていくと思うので、日本一を目指していくチームになってほしい」

昇格を決めた桐蔭大戦のスターティングイレブン

| | |
|----------|----------|
| 田村豊(4年) | 今井伸(1年) |
| 菊地洋平(1年) | 天願匠(3年) |
| 金子義人(1年) | 岩野匡伸(3年) |
| 井脇智也(4年) | 渡邊直央(1年) |
| 佐藤光治(4年) | 長岡政人(2年) |
| 長栄一郎(4年) | |

<千葉県春季リーグ順位>

- 1位：国際武道大(7勝)
- 2位：中央学院大(4勝1敗2分)
- 3位：明海大(4勝1敗2分)
- 4位：東京理科大(3勝3敗1分)
- 5位：千葉大(3勝4敗)
- 6位：江戸川大(1勝2敗4分)
- 7位：城西国際大(1勝5敗1分)
- 8位：麗澤大(7敗)

*秋季の結果は右、関東大会の結果は前頁参照

| 秋季リーグ | 国武大 | 明海大 | 中院大 | 理科大 | 勝 | 負 | 分 | 點 |
|---------|------------|------------|------------|-----|---|----|---|---|
| 1 国際武道大 | 2△2 0△0 | 2△2 1○0 | 4○0 4○0 | 3 0 | 3 | 12 | | |
| 2 明海大 | 0△0 2△2 | 1●3 2△2 | 4○2 3○0 | 2 1 | 3 | 9 | | |
| 3 中央学院大 | 0●1 2△2 | 2△2 3○1 | 2○1 0●2 | 2 2 | 2 | 8 | | |
| 4 東京理科大 | 0●4 0●4 | 0●3 2●4 | 2○0 1●2 | 1 5 | 0 | 3 | | |

日大が11年振り 1部昇格! <1部-2部入替戦>

慶應大0 $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 0-1 \end{array} \right\}$ 1日大

11月2日に西が丘サッカー場にて行なわれた1部-2部入替戦は、2部2位の日大が1部7位の慶應大を破り11年振りとなる1部昇格を決めた。両者無得点で迎えた後半15分、再三チャンスを作り出していた右サイド・DF末本からのセンタリングをニアに詰めていたMF山崎がヘディング

で決めて日大が先制。慶應大も追いつこうと懸命の攻撃を見せるが、日大が集中力を切らすことなく零封。来季1部の舞台を勝ち取った。慶應大は5年振りに2部へ降格することが決まった。